

## 【コメント（アドバイス）C】（計画 ③④⑤⑥）

全般的に事業評価フロー図では、それぞれ事業実施後の期待できる効果、成果が示されていると思います。

個別にみると、施策の柱「社会教育関係職員の資質向上」に基づく事業「社会教育活動及び関係職員資質向上支援のための調査研究」では、調査研究の成果を県の組織における研修事業の再構築に活用することと、市町村では研修・事業に活用することが明確になっています。

また、「新任社会教育関係職員研修」では、研修がどのように生かされたかが意識されている点は重要です。このうち、事業の直接的な効果にある「参加職員間でのネットワークの活用」を相談等でとらえようとしているところはユニークです。

「HP〇〇社会教育ネットワークの運用、活用」では、県民や利用者の情報アクセスや満足度の向上とともに、社会教育情報センターの情報拠点としての役割を評価しようとしている点はよいことだと思います。なお、事業目的達成度の「県民の認知度・活用度を向上と社会教育活動の推進」にみられる「社会教育活動の推進」部分は施策全体に関わる内容であり、この事業のみの評価に組み入れるかどうかは検討の余地があります。

最後に、「4泊5日のチャレンジキャンプ」では、キャンプへ参加に終わらず、その後の展開が作成されているのはよいと思います。ただ、事業目的達成度にみられる「青少年の健全育成」が事業の目標に比べると若干拡大しているように感じられます。また、学校と地域の連携という内容は施策や施策の柱に記載がないので、両者の内容を合わせるようにするとよいと思います。

全体としては、複数の事業の評価フロー図が作成されており、それらをまとめた社会教育計画の作成が期待できます。また、個々の評価フロー図では、多くの評価指標が示されており、多様な視点からの評価の姿勢が伺えます。

個別には、「事業の目標」と、「事業の直接的な効果」「事業目的達成度」との間に少々差があると感じるものがあります。例えば、「新任社会教育関係職員研修」では、「事業の目標」が「資質の向上とネットワークの構築」となっていますが、「事業目的達成度」が「市町村での改善事業実施と広がり」等となっていたり、「4泊5日のチャレンジキャンプ」では、「事業の目標」が「～子どもを育てる」となっていますが、「事業の直接的な効果」がモデル事業の普及成果を主眼とした内容になっていたりと、

また、評価指標として「理解度と満足度」がいくつか示されていますが、その判断や測定方法について、詳しく知りたいところです。